

## 研究テーマ

## 「がん患者・家族に関する研究」

～ がんになっても安心して暮らせる社会の構築をめざして～

当研究室では、住み慣れた地域でがん患者と家族が望む生活の実現に向けて、総合的な判断と組織的な問題解決能力を培い、高度の看護実践を行うための看護を探求します。

がん看護CNSコースと研究コースの2つがあります。CNSコースは日本看護系大学協議会の38単位教育課程の認定を受けています。3月にCNSコース1期生3名が修了し、病院で活躍しています。

現在、研究コース1名の大学院生が在籍しています。

### 主な研究テーマ

- グループ介入による援助プログラムの開発に関する研究
- 外来チーム医療システムに関する研究
- がん治療を受ける患者・家族の療養生活を地域で支える連携システムモデルの構築に関する研究

### 主な担当講義科目

質的研究方法論、看護理論特論、実践看護学特論Ⅰ・Ⅱ、実践看護学演習Ⅰ・Ⅱ  
がん看護学特論Ⅰ～Ⅲ、がん薬物療法看護論、がん薬物療法看護演習、緩和ケア論、緩和ケア演習、がん看護学実習Ⅰ～Ⅴ

### 研究紹介

患者ががん治療を受けながら療養生活上の様々な問題を自ら解決し、住み慣れた場で安心して自分らしい生活を送ることができるための研究を行っています。グループ介入による援助プログラムの開発や外来チーム医療システムの構築、さらに現在は、がん治療を受ける患者・家族の療養生活を地域で支える連携システムモデルの構築に関する研究をすすめています。

### 院生の主な研究テーマ

- 乳がん患者がホルモン療法を継続して受けながら社会生活を送る上での体験
- 地域の一般病院におけるがん患者への緩和ケアの実践に対する看護師の認識
- 造血器腫瘍患者にAdvance Care Planningを実践していくことに対する看護師の認識
- 養育期にある乳がん患者と配偶者のレジリンスに影響する要因に関する研究

### 大学院進学を希望する方へひと言

これまでの看護実践の中で、これでよかったのかと悩んだり、自分の力が足りないと感じたこと、その経験を大切にしてください。大学院では、臨床経験を振り返り、何が足りないのか、どうしてなのか、ケアを改善するためにはどうすればよいのかについて、理論や概念を活用して考え、がん患者さんと家族のケアについて探求していきます。がん看護を深めたいと考えている方、ぜひ一緒に学んでみませんか。お待ちしております。

### 大学院生の声

私は、臨床を経て教育研究機関に入り、教育と研究、臨床の関係が密接不可分であると実感し、仕事を続けながら大学院への進学を決意しました。大学院では主体性が求められ、課題について自分自身で考えて模索していく日々は、辛く感じる時もありますが、そのぶん得られることも多く、知識の積み重ねを実感しています。指導教員をはじめ、先生方からは授業や研究課題に関するご指導・ご助言と温かい励まし、そして看護への熱意をいただき、また同期の仲間とは常につながりを実感しながら、恵まれた環境の中で院生生活を送っています。大学院での学びを活かした教育研究活動、地域社会への貢献ができるよう、日々自己研鑽に励んでいきたいと思っています。